

《コントラバスのオブリガート付きシンフォニー(ニ長調)》(1808年頃)¹

水谷 彰良

コントラバスのオブリガート付きシンフォニー(ニ長調) *Sinfonia obbligata a contrabbasso*

作曲 1808年頃 [推測]、ラヴェンナ [推測]

初演 不明

編成 管弦楽 (1フルート、2オーボエ、2クラリネット、1ファゴット、2ホルン、1トロンボーン、弦楽5部)

演奏時間 約7分半

自筆楽譜 未発見または消失。唯一の筆写譜がラヴェンナの G.ヴェルディ私立音楽学校 (Ravenna, Istituto Musicale Pareggiato “G.Verdi”, Biblioteca [Fond dell’ Accademia Filarmonica]) に所蔵 [パート譜と総譜]。

初版楽譜 下記全集版

現行版 下記全集版

全集版 VI / 1 (Paolo Fabbri 校訂, Fondazione Rossini, Pesaro, 1998.)

構成 ニ長調、3/4拍子、ラルゴ〜2/2拍子、アレグロ・コン・スピーリト

解説

《修道院のシンフォニー》と同様、自筆楽譜の存在が確認されず、アゴスティーノ・トリオッシ (Agostino Triossi, 1781-1822) の所有していた筆写譜を唯一の典拠とするシンフォニー。ラヴェンナの図書館 (上記) に所蔵される筆写譜のタイトル頁に、「コントラバスのオブリガート付きシンフォニー (Sinfonia / Del Sig.r Maestro Rossini obbligata a Contrabbasso)」とあり、Gossett²は題名を《*Grand’overtura obbligata a contrabbasso*》、作曲年を「1809年頃」とした。後者は筆写譜冒頭頁の記載「*Grand’Overtura Obligata a Contrabbasso*」に基づく題名であるが、全集版は筆写譜のタイトル部分の記載から《*Sinfonia obbligata a contrabbasso*》を採用し、校訂者パオロ・ファブブリ (Paolo Fabbri) は断定を避けながらも、周辺状況から1808年にラヴェンナで作曲と推測している³。

曲は序奏部 (ニ長調、3/4拍子、ラルゴ) と主部 (ニ長調、2/2拍子、アレグロ・コン・スピーリト) からなる。主部の明るく華やかな第一主題とスタッカート第二主題が対照的で、第二主題は繰り返されるごとに楽器の用法と音楽に工夫が凝らされている。但し、コントラバスのオブリガートやソロは一切使われず、題名と内容が一致しない。

推薦ディスク：

- ・ Riccardo Chailly 指揮ボローニャ歌劇場管弦楽団 (1991年録音 Decca 436 832)
- ・ Alun Francis 指揮ボルツァーノ・ハイドン管弦楽団 (1992/93年録音 Cpo 999 063-2)



¹ 初出は『ロッシニアーナ』第33号所収「ロッシーニ全作品事典 (25) ロッシーニの器楽曲①」。HP用の改訂版、2015年1月。
² *The New Grove Dictionary of Music & Musicians*, 2-ed., Macmillan, 2001. 所収のフィリップ・ゴセット (Philip Gossett) によるロッシーニ作品目録
³ 全集版序文 pp.XXII- XXIV.